

寄島町埋蔵文化財発掘調査報告 1

福井山遺跡



龍城院から福井山をのぞむ

2003

寄島町教育委員会
宗教法人福井山龍城院

序

本書には、寄島町6884-1に所在する、福井山遺跡の発掘調査成果を収載しました。

この調査は、墓地公園造成工事に伴う発掘調査です。工事計画用地内には、平成11年度に行われた岡山県詳細遺跡分布調査において発見された、福井山古墳が所在しているため、寄島町教育委員会では用地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、工事主体者と協議・調整を続けてまいりました。その結果、現状での保存は困難であるとの結論に達し、やむなく記録保存のための発掘調査を実施することになりました。

発掘調査の結果、福井山古墳は古墳ではなく盛土遺構であることが判明し、また周囲より中世の骨蔵器が発見され、町内における中世の墓制の一端を明らかにすことができました。この報告書が、学術研究に寄与できるばかりではなく、文化財の保護・保存のために活用され、地域の研究のための資料として広く役立つならば幸いに存じます。

最後に、発掘調査ならびに報告書作成にあたりまして、岡山県教育委員会、岡山県古代吉備文化財センター、宗教法人龍城院をはじめ、文化財保護委員並びに地元の方々から賜りました、多大なる御指導、御協力に対して、厚くお礼申し上げます。

寄島町教育委員会 教育長 作田 雅利

ごあいさつ

天台宗福井山寿福寺龍城院は、慈覚大師様の開基で、承和5年（838年）に建立されております。その後16世紀半ばに細川氏の祈願寺となりました。現在でも境内に細川下野守女の墓をお祀りしています。備中国は、畿内勢力と、九州・西国勢力との軍事的接点に位置し、多くの合戦がありました。江戸時代には、池田光政の寺社整理、併合により、12坊の内の月光坊が後の龍城院になり、以来現在に到っております。この度、年來の檀信徒の皆さんからの要望があります、当院境内墓苑造成に向けて、発掘調査が行われました。

さて平成18年には天台宗が開宗されて、1200年にあたります。このような時期に、中世の集石墓が発見され、当院の先祖であります火葬墓が見つかりました事は、大きな喜びであります。21世紀の日本のあり方を考えますと、温故知新のことわざの通り、古きを探しその上に新しい将来を築く為に、どっしりととりくんでまいりたいと思います。

尚、岡山県古代吉備文化財センターの河田先生をはじめ、寄島町教育委員会並びに関係者の皆様にお礼を申し上げます。

龍城院住職 龍 迪信

例言・凡例

- 1 本報告は墓地公園造成工事に伴い、寄島町教育委員会及び宗教法人龍城院の依頼を受けて、岡山県古代吉備文化財センターが行った「福井山遺跡」の発掘調査報告である。
- 2 福井山遺跡は淡路郡寄島町6884-1番地に所在する。
- 3 発掘調査金はかかる経費はすべて原因者負担によるものである。
- 4 発掘調査は平成14年度に、岡山県古代吉備文化財センターが実施した。調査面積は600m²である。
- 5 発掘調査・報告書作成にあたっては、宗教法人龍城院から、資料の提供をはじめ多大なる御協力を得た。記して謝意を表します。
- 6 本書の作成は、平成14年度に、岡山県古代吉備文化財センター職員の協力を得て河田健司が行った。
- 7 本書に開示する遺物は、寄島町教育委員会（寄島町7540-5）において、写真・図面などは、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尾1325-9）において保管している。
- 8 本書に用いた高度値は海拔高であり、方位は平面直角座標第V系の座標北である。
- 9 この報告書における土層の色調は、担当者の記述により、遺物の色調は「標準土色帖」による。
- 10 第2図の地図は、国土地理院発行25000分の1地形図（寄島）を加筆修正して使用している。

目 次

序・例言・凡例・目次 1
第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯 2
第2節 調査体制 2
第2章 調査の結果	
第1節 位置と環境 2
第2節 造構の立地 4
第3節 造構と遺物 4
第3章 まとめ 9

第1章 調査の経緯及び体制

第1節 調査の経緯

平成13年、寄島町福井地区に所在する「福井山」と称する丘陵上に、墓地公園を造成する計画が立案された。工事予定地内には、平成11年度から岡山県教育委員会が実施している、県内遺跡詳細分布調査において、尾根上に古墳の可能性のある、東西2つの高まりが確認されていた。このため、寄島町教育委員会は平成12年12月20日に、2つの高まりに対する遺跡の性格を調べるための確認調査を実施した。その結果西側の高まりからは近世以降の瓦片が出土し、古墳ではないと判断されたが、東側の高まりは、直径6m高さ0.5mの円墳であると推定され、「福井山古墳」と命名された。そして地権者及び事業主体者より、岡山県教育委員会に対し、文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づき、平成14年2月19日付けで「埋蔵文化財発掘の届け出」が提出された。これをうけて、関係機関による協議が行われ、この事業は丘陵部分を削平するため遺構の現状保存は困難であるという結論に達し、記録保存のため、工事着手前に発掘調査を実施し、調査の結果重要な遺構等が発見された場合には、その保存等に対し別途協議することが決定された。

発掘調査は、寄島町教育委員会が調査主体となり、現地での調査は、同教育委員会が派遣を依頼した、岡山県古代吉備文化財センター職員河田健司が行った。調査期間は、平成14年5月13日から6月17日まで、調査範囲は当初「福井山古墳」とその周辺80m²を対象としたが、後に火葬墓の発見に伴い、丘陵の尾根上平坦部全域を調査したため600m²に増加した。

なお、「福井山古墳」は、調査の結果室町以降の盛土遺構と判明し、「福井山遺跡」と改称した。

第2節 調査体制

寄島町教育委員会

教育長	作田 雅利
教育課長	鈴木 憲夫
教育課長補佐	藤井 まさえ
調査員	河田 健司（岡山県古代吉備文化財センター 文化財保護主任）
発掘調査作業員	陶山 公夫 陶山 恵美子 陶山 郭志

第2章 調査結果

第1節 位置と環境

寄島町は、岡山県南西部の瀬戸内海に面した地域に所在する。北と西からは、鴨方町及び笠岡市から延びてくる山塊が迫り、平野部は、その山塊に挟まれた、鴨方町南西端から寄島町福井地区を通り、山根地区へ抜ける浸食谷中に、南北に細長い谷底平野が、海岸沿いに、南流する小河川により狭小な沖積平野がそれぞれ形成されている。この海岸沿いの平野部の南東には、町名の由来であり、干拓に

より地統きとなった寄島（三郎島）を望むことができる。

古代、寄島町は備中国、浅口郡、於保之万（大島）郷に属している。しかし古代・中世の町内の様相を示す資料は少なく不詳である。14世紀頃、鴨方町六条院周辺に、攝河天皇の皇女媛子内親王の菩提寺として建立された六条院の莊園として、大島保が成立している（註1）が、その範囲が寄島町を含むかは不明である（註2）。また、「鴨山城由緒」の永禄二年（1559年）に、細川氏の被官八十人が、伊予国川之江城より、細川通薫を大将として迎えたという記述は、当時の寄島町周辺地域における有力な支配者の不存在を示していると考えられ、室町時代後半、戦国大名に囲まれたこの地域が、各勢力の支配下にない空白地域であったことをもうかがわせる。細川通薫は毛利氏の麾下にあり、この地域は以後近世に至るまで毛利氏の勢力下に置かれる事になる。

福井山遺跡は福井地区内の浸食谷中に形成された平野中の、字名「福井西平」に所在する、標高約71mの福井山上に位置している。80ha所近くが確認されている町内の遺跡の多くは中世以降と考えられる遺跡で、福井山遺跡の東の山麓に所在する龍城院の境内や、付近の山中や麓にも、中世の石造物が点在し、周囲の耕地からは、中世の遺物が採取されている。このことから福井山遺跡の所在する福井地区一帯は、中世以降に開発が進んだ地域であると推定される。

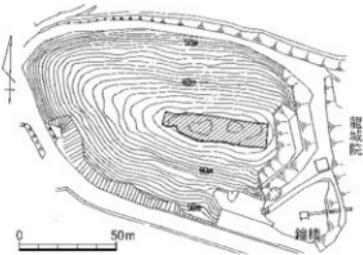


図1 調査区位置図 (S=1/2500)



図2 周辺部の遺跡 (S=1/25000)

1. 茶臼山城、2~4. 散布地 5. 東光功跡 6. 柿木道跡 7~8. 散布地 9. 石造物 10~12. 散布地 13. 宮の前古墳
14~16. 散布地 17. 古墳？ 18~20. 散布地 21. 古墓（中社） 22~24. 散布地 25. 福井山遺跡 26・27. 石造物
（中社） 28. 散布地 29. 石造物（中社） 30. 福井古墳 31. 古墓（中社） 32. 散布地 33. 龍山城（鴨方町）
34. 散布地 35. 片本古墳 36. 絆塚？ 37・38. 散布地 39. 古墓（中社） 40. 石造物（中社） 41・42. 散布地
43. 石造物 44~46. 散布地 47. 石造物 48~53. 散布地

第2節 遺構の立地

今回の調査において、盛土遺構1基、火葬墓3基が検出された。これらの遺構の立地する福井山頂上付近は、標高67.9mのセンターを境に、それよりも高い部分は東西30m、南北10mのゆるやかな平坦面を形成し、それよりも低い部分は、東西方向には緩やかに、南北方向には急激に傾斜するという地形を呈している。遺構はこの狭い平坦面を中心に所在し、盛土遺構は平坦面の西端に、火葬墓1・

X=67160

X=67170

Y=67180

2は平坦面北西端の、北へ下る斜面上に、火葬墓

3は盛土遺構から東へ20m程離れた平坦面東端に

それぞれ所在している。

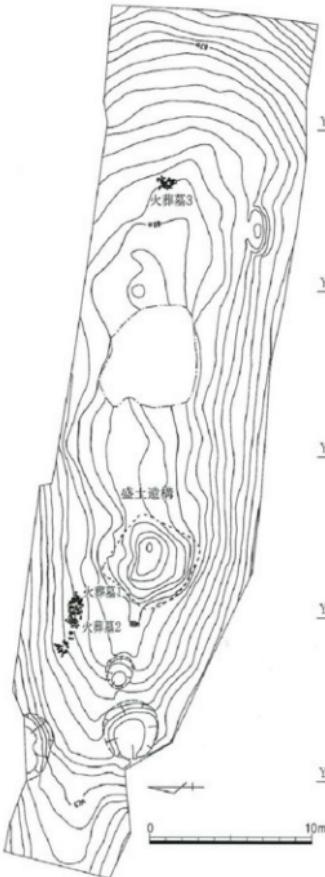


図3 遺構配置図 (S=1/300)

遺構の所在する福井山の尾根上には、何カ所も土取を行ったような円形の土坑が見られる。この土坑内には、現代の表土と同質であると思われる腐植土が堆積している。また立木の下などには、周囲の小礫を集めめたと思われる場所も点在する。この小礫に混じって近世以降の瓦片が若干含まれており、これらのことから福井山の尾根上は、近世以降に何らかの土地改変が行われたことが推定される。

第3節 遺構と遺物

盛土遺構

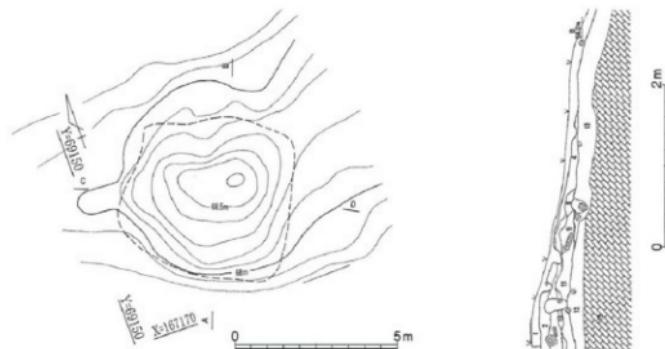
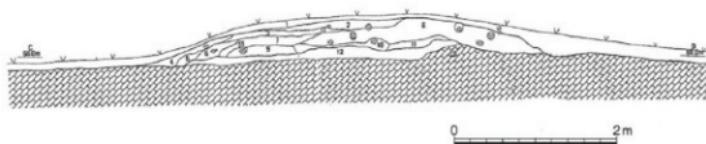
現状での高さ約0.5mを測る壠状の高まりである。南西の端部は比較的明瞭に観察されるが、南西の端部は、直接丘陵の南斜面と連続するため、また北東及び南東の端部は、樹木による擾乱のため不明瞭である。しかし地形測量の結果から、北東方向に軸を持つ、一辺約5mの歪な方形を呈していると判断された。



写真1 盛土遺構（北から）



写真2 盛土造構塗造状況（南から）



盛土造構A B 断面図

- 1 現代の表土
- 2 淡黄褐色シルト（盛り土）
(径5 mm程度の砂礫が混入)
- 3 淡黄褐色シルト（盛り土）
(灰色の径5~20mm程度の小礫を含む)
- 4 黄灰褐色シルト（盛り土）
(径5 mm程度の砂礫が混入)
- 5 黄褐色シルト（盛り土）
(2層よりも黄色が強い)
- 6 明黄褐色シルト（盛り土）
(橙黄色土が斑状に混入)
- 7 淡黄褐色シルト（盛り土）
- 8 明黄褐色シルト（盛り土）
- 9 黄褐色シルト（盛り土）
- 10 橙黃色粘質微砂（盛り土）
- 11 黄褐色粘シルト（盛り土）
(径2 cm程度の小礫が混入)
- 12 黄褐色シルト（旧表土）
(径5~20mmの小礫、細砂が混入)
- 13 黄褐色シルト（旧表土）
- 14 淡黄褐色粘シルト（旧表土）
- 15 明黄褐色粘微砂（地山）
(径2 cm程度の小礫を多量に含む)

盛土造構 C D 断面図

- 1 現代の表土
- 2 淡黄褐色シルト（盛り土）
(径5 mm程度の砂礫が混入する)
- 3 黄褐色細砂（盛り土）
(水塊粒含むが流れている)
- 4 淡黄褐色シルト（盛り土）
- 5 喀斯特化シルト（盛り土）
(砂粒が若干混入する)
- 6 明黄褐色シルト（盛り土）
- 7 黄褐色シルト（盛り土）
(径1 cm程度の小礫及び水塊粒混入)
- 8 明黄褐色シルト（盛り土）
(細砂の崩山土が軟化して混入)
- 9 小細粒シルト（盛り土）
- 10 橙色粘質シルトが小さなブロックで混入
- 11 橙黃色粘質微砂（盛り土）
- 12 黄褐色シルト（旧表土）
(木炭粒含む。流れている)
- 13 黄褐色シルト（旧表土）
(径5~20mmの小礫、細砂が混入)
- 14 淡黄褐色粘シルト（旧表土）
- 15 明黄褐色粘微砂（地山）
(径2 cm程度の小礫を多量に含む)

図4 盛土造構平面図・断面図 (平面図 S=1/150 断面図 S=1/60)



図5 盛土造構出土遺物(S=1/3) 土直下の土と色調・土質とも共通しており、周囲の土を使用したものと考えられる。盛土には特に突き固めた様子は認められない。

盛土中からは、数点の土器片が検出されたが、図示できたのは1点のみである。図7は土師質の小皿で、CD断面8層に相当する盛土内から出土した。復元径6.6cm高さ1.1cmを測り外面ともにナデが施され、底部は糸切りである。色調はにぶい黄橙色を呈する。この小皿は、室町時代の範疇にあると考えられ、したがって盛土造構の築造は古くても室町時代以降と推定できる。

火葬墓1

火葬墓1は、盛土造構から北西約5mのところで検出された。この地点は、北側の緩斜面上にある。直径10cm~30cmの礫が東西2m、南北1mの範囲に集中している。区画はあまり明確ではないが、西端と東端には、石が区画を形成するように一列に並べられており、東西に長軸を持つ長方形のプランであると考えられる。その中心付近の地山を直径40cm、深さ15cm程掘り窪め、骨蔵器が据えら

れており、内部には火葬骨混じりの土が残存していた。(図6)

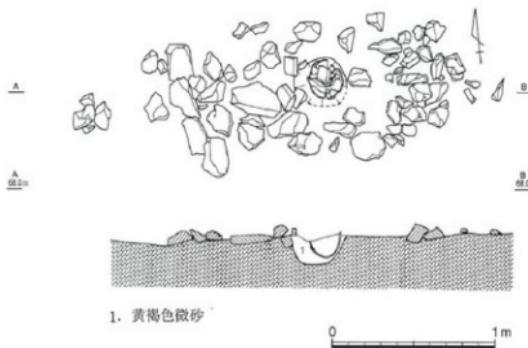


図6 火葬墓1平・断面図(S=1/30)



写真3 火葬墓1(南から)



写真4 火葬墓1骨蔵器

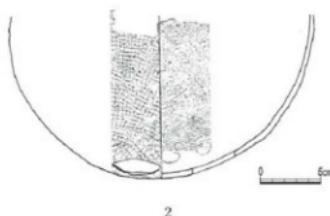


図7 火葬墓1骨蔵器 (S=1/4)

また焼成後に内部から穿孔されている。外面は灰白～浅黄色、内面は黄灰色であり、焼成は良好で須恵質を呈する。骨蔵器の特徴から火葬墓1の時期は、室町時代と推定される。

火葬墓2

火葬墓1の西、北側の緩斜面上に所在している。火葬墓1の骨蔵器から2m西に、地山をわずかに窪ませた中に骨蔵器が据えられており、内部に火葬骨混じりの土が残存していた。骨蔵器の周辺には礫が疊らに存在するが、後の削平により原位置を保っていないと考えられ、平面プランは不明である。50cmほど離れた北側に、礫がある程度まとまって存在することから、骨蔵器周辺の礫が、



写真5 火葬墓2（北から）

削平により、低い方へ移動した可能性がある(図8)。

図9は亀山焼の壺である。平底で、底径14.9cm、残存胴部最大径25.8cm、残存高11.0cmを計る。胴部外面には3~4mm程度の格子目タクキが施され、内面は底部に近い胴部にはナデが施され、胴部と底部の境目付近には、指頭圧痕が認められる。内外面ともに灰白～灰黄色を呈し、焼成は瓦質に近い。

骨蔵器の特徴から、時期は鎌倉時代後半と推定される。

火葬墓3

火葬墓1から30m程東の東へ下る緩斜面上に位置している。径1m程の範囲に、10~30cm程度の礫が集められている。これらの礫は、一部現在の表土層から露出しており、また周囲の木根により移動している可能性もあるため、平面プランは不明である。この集石のやや南寄りの、地山をやや窪ませた中に骨蔵器が据えられ、内部に火葬骨混じりの土が残存していた。礫は、骨蔵器を固定するように口縁部まで積まれており、当初は骨蔵器全体

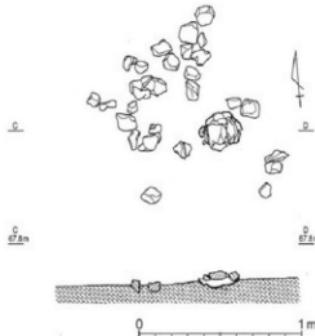


図8 火葬墓2平・断面図 (S=1/30)



写真6 火葬墓2骨蔵器

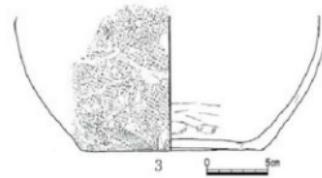


図9 火葬墓2骨蔵器 (S=1/4)

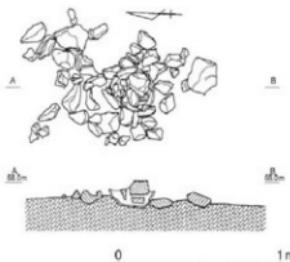


図10 火葬墓3平・断面図 (S=1/30)



写真7 火葬墓3（南から）

遺跡や草戸千軒遺跡では内外面ともハケが残る。これらは時期差を表す特徴かもしれないが、サンプルの少ない現時点でははっきりしない。火葬墓3骨蔵器は内外面の調整から判断して、亀山遺跡に近いと考えられるが、ここでは室町時代の範囲にあるとだけしておきたい。したがって火葬墓の時期もその頃に置きたい。

遺構に伴わない遺物

調査区内からは、遺構以外からも若干遺物が出土している。以下図示できた物2点をあげておく。

図12-5は土師質碗、いわゆるへそ椀の底部である。盛土造構と火葬墓3との間の平坦面上から出土した。



写真8 火葬墓3骨蔵器

を覆い隠すように疊を積み重ねた構造であったことが推定される。

図11は土師質の浅鉢あるいは盤と考えられる、浅い円筒形をした容器である。口径26.3cm、底径17.6cm、器高11.6cmを計る。外面は縦方向のハケの後ナデによって仕上げられている。また指頭圧痕も目立つ。口縁部はやや肥厚し、端面はヨコナデで仕上げられ、若干窪んでいる。外面底部は、タテハケ後ナデで仕上げられている。内面は、ヨコハケの後丁寧なナデにより仕上げられている。片口が付くと思われるが、大部分が破損しているため詳細は不明である。外面は灰黄褐色、内面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には砂粒が若干混じるが比較的精良である。

この骨蔵器の器種は、亀山遺跡の13世紀後半～14世紀の範囲にある土器だまり9、14世紀半ばを下限とする土器だまり12（註3）、沖の店遺跡の15世紀後半～16世紀前半の範囲にある2区溝・4区包含層（註4）、草戸千軒遺跡の、15世紀後半頃と考えられるSD760、SD4455・4456、S4720などから出土している（註5）。この内亀山遺跡土器だまり9と草戸千軒遺跡から出土したのは瓦質である。また、亀山遺跡では内外面ともナデで仕上げられているが、沖の店遺跡や草戸千軒遺跡では内外面ともハケが残る。これらは時期差を表す特徴かもしれないが、サンプルの少ない現時点でははっきりしない。



図11 火葬墓3骨蔵器 (S=1/4)

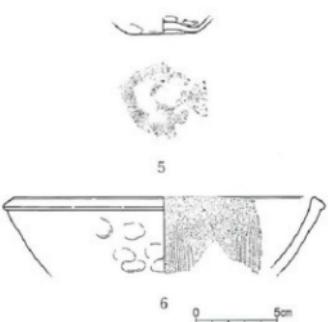


図12 遺構に伴わない遺物 (S=1/3)

第4節 まとめ

盛土遺構について

今回調査を行った盛土遺構は、当初は小型の古墳として調査を行ったが、その結果古墳ではなく、室町時代以降の遺構であると判明した。

中世に築造されたこのような盛土遺構の用途には、塚墓や、経塚や土を盛り上げただけのいわゆる「塚」が考えられる。埋葬施設や、埋納施設が確認できなかったため、経塚や塚墓の可能性は低い。「塚」は、鎌倉時代頃から多く築造され、社寺などの境域、村の外、山丘上に所在し、直径5~6mあるいは10~20mの物が多く、平面形は円形もしくは方形を呈し、たまに石塔などを建てることがある。盛り土内からは、古錢、あるいは仏具が出土することもあるが、何も出土しないことが多い(註6)。盛土遺構はこれらの特徴を備えており、塚であると推定される。「塚」は信仰の対象になっている事が多いため、盛土遺構は宗教的な目的で築造されたと推定され、築造時期が室町時代以降であることから、火葬墓に伴う宗教的な施設であった可能性も考えられる。

火葬墓について

今回の調査で発見された3つの火葬墓は、福井山頂上の平坦面に近い緩斜面上に営まれている。上記のように福井山頂上は土地の改変を受けており、かつては平坦面上にも営まれていた中世墓が、改変によって消滅してしまった可能性もある。しかし、調査区全体から出土した遺物の数も少なく、消滅した火葬墓があったとしてもそれほど多くはないと考えられる。つまり、中世の福井山は、頂上平坦面を中心に、火葬墓が疎らに営まれていた墓地であるといえる。

福井山の、谷を挟んで北東側の斜面上から、平成2年に墓地造成中、備前焼の骨蔵器と思われる壺が出土している(写真9)。福井山の周辺部には他にも中世墓地が存在する可能性が高い。



写真9 備前焼骨蔵器

中世墓地の性格について

福井山の東麓に位置する福井山龍城院は、寺伝によると承和5年（838年）に惠覺大師により建立され、12坊を擁していた天台宗の寺院であったが、寛文6年（1666年）の寺院整理の対象となり、唯一残った月光坊（現在の鐘楼付近にあったとされる）を天和元年（1681年）に院号を「龍城院」としたとされる。寛文6年に月光坊以外の坊が廃寺になったことは、宝永4年の



「寛文六年亡所仕古寺書上帳」に見え、寺院整理以降の

写真10 境内の石造物（南から）

龍城院については、元禄13年の「明王院末寺書上帳」（但し「福井山寿福寺月光坊」とされている）等文献にもたびたび登場する。このことから寛文6年には、現龍城院の周辺に寺院が存在したことは明らかである。しかし寛文以前は、不詳である。

しかし寛政年間に書かれたものであるが、「吉備温故秘録」には龍城院の伝承として、当寺が細川下野守の祈願寺であり、境内に細川下野守の女の墓が所在するとの記述がある（註7）。この「細川下野守」は、「鶴山城由緒」によれば永禄2年（1559年）に伊予川之江城から青佐山城（青佐）へ迎え入れられ、その後龍王山城（鶴方町）さらに鶴山城に居を移した、細川太郎通董と思われる（註8）。また福井山周辺や龍城院境内には、中世の五輪塔や宝篋印塔がまつられている。これらのことから中世において、現在の龍城院付近に、寺院が存在した可能性もある。中世墓地には、寺院周辺や境内の丘陵上に営まれる物も多い（註9）ことから、福井山山頂の火葬墓群は、現在の龍城院付近にかつて所在した寺院に関連する墓地であった可能性が考えられる。

（註1）「室町能輝子内親王御領目録」（鎌倉造文）の記述から少なくとも正安4年（1302年）には成立している。

（註2）田中修氏は宝暦9年及び安永6年の住吉神社標札の氏子の地域名から、寄島町域（東大島村・大島中村・六条院西村）が大島保の領域に含まれていた可能性を指摘している。（『鶴方町史 資料編』 鶴方町誌編纂委員会）。また藤沢晋氏は「寛政四年改訂大浦八幡宮祭礼馬定競馬帳」の中の地頭標と領家標の記述から、この地域においてかつて下地中分が行われた可能性を示している。（『寄島町史』 可史編纂委員会 1967年）。

（註3）「亀山遺跡」「山陽自動車道建設に伴う発掘調査3」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告69 建設省岡山国道調査事務所 岡山県教育委員会 1988年

（註4）「淡口郡鶴方町小坂西・沖の店遺跡」「山陽自動車道建設に伴う発掘調査2」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告42 建設省国道路工事事務所 岡山県教育委員会 1981年

（註5）「草戸千軒町遺跡発掘調査報告IV 南部地域南半部の調査」広島県草戸千軒町調査研究所 1995年

（註6）望月兼弘「仏教の遺跡と遺物—道路」『新版仏教考古学講座』1総説 堤山閣 1984年

（註7）吉備温故秘録附錄中領分佛利の項に記述がある。

（註8）吉備温故秘録の「細川下野守女墓」の項に「下野守は鶴方加茂山城主也」とある。

（註9）齋藤忠「中世の火葬墓と一谷中世墳墓群遺跡」「一谷中世墳墓群遺跡」齋田市教育委員会 1993年

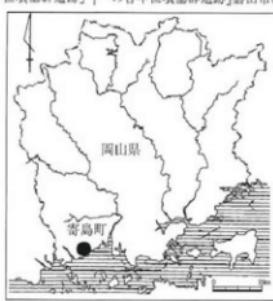


図13 寄島町の位置(S=1/200万)



作業風景

ふりがな	ふくいさんいせき						
書名	福井山遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名	寄島町埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ番号	1						
編集者名	河田 健司						
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター						
所在地	〒701 - 0136 岡山県岡山市西花尻1325 - 3 TEL 086 - 293 - 3211						
発行機関	寄島町教育委員会・宗教法人福井山龍城院						
所在地	〒714 - 0101 岡山県浅口郡寄島町7540 - 5 TEL 0865 - 54 - 2114						
発行年月日	2003年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°°°	°°°	m ²	
福井山遺跡	岡山県浅口郡 寄島町6884-1	444	—	34 29 30	133 34 50	2002.5.13 — 2002.6.17	墓地公園造成工事 に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
福井山遺跡	古墓	中世	火葬墓・盛土遺構	亀山鏡・土師質土器	中世の火葬墓群		

福井山遺跡

寄島町埋蔵文化財発掘調査報告1

発行	平成15年3月31日発行 寄島町教育委員会 〒714 - 0101 岡山県浅口郡寄島町7540 - 5 TEL 0865 - 54 - 2114
後援	宗教法人福井山龍城院 〒714 - 0101 岡山県浅口郡寄島町6881 TEL 0865 - 54 - 2013
印刷	三益舎印刷所 岡山県笠岡市六番町4 - 10